

信州上田 川西紀行

ささぼらじょう
～笹洞城(上室賀)～

川西まちづくり委員会事務局
〒386-1106 上田市小泉863-1
川西地域自治センター内
電話080-5827-9724
E-mail kawamati@ued.janis.or.jp

第1号

令和4年3月発行

戦国時代の善光寺街道要所を護った

室賀氏の山城

笹洞城を訪ねて

川西まちづくり委員会 子育て教育文化部会は
令和3年9月19日、地域文化財フィールドワークを行いました。



当時の石積みが残る笹洞城の本郭跡

はじめに

子育て教育文化部会

部会長 井澤 正雄(越戸)

当部会では、2021年度の活動内容を定めるにあたって話し合いを持ち、地域の文化財等に詳しい人の話を聞いてみようという事になりました。候補としては高校の先生、住職さんなどが対象になりましたが、その中で挙げられた上田市生涯学習・文化財課の「出前講座」で上田市歴史文化基本構想をお聞きしました。

講座の中で、「文化財になりえるものはある」「まず地域を知ること」学びました。地域にある文化財を生かすには、その場へ行つて、何ができるのかを考えようという事になりました。とにかく地域を知ることになりました。第一歩ですので、今回は上室賀にある、笹洞城をフィールドワークすることに決定しました。

それぞれの地域には、その地域の文化財に詳しい方がいます。今回は笹洞

部会長メッセージ	P1
室賀氏の城館の跡	P2
笹洞城フィールドワークを行って	P3
資料(上室賀 清水博様ご提供)	
絵地図「上室賀の史跡と文化財マップ」	
笹洞城跡概念図	
絵地図「室賀城周辺図」	

城について詳しい上室賀在住の清水さんにお願ひして案内をしていただきました。清水さんのお父様が私的に作られた「上室賀の史跡と文化財マップ」を提供していただき、当日も「笹洞城跡概念図」を参加者に配布して、丁寧に説明していただきました。

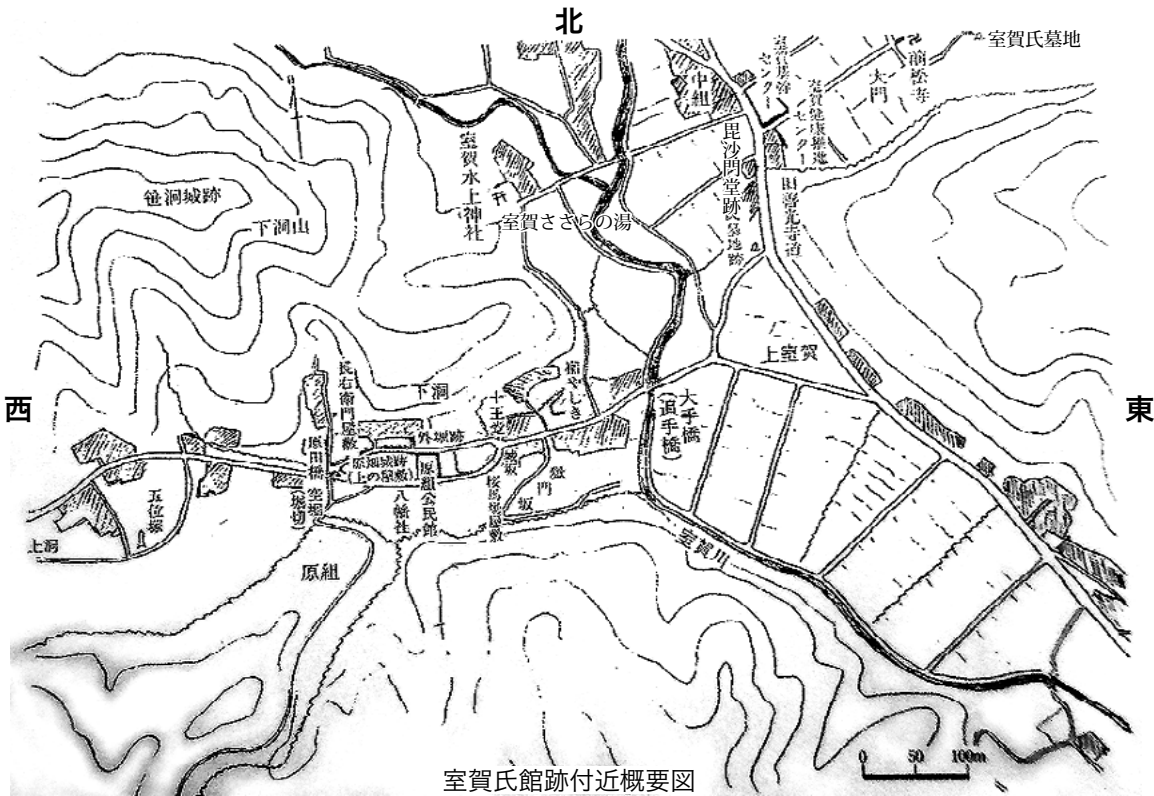
川西地域を見たときに、まだまだ他の自治会の文化財などについて知らないことが多いのですが、今の時代です。SNSやいろいろな書籍でも紹介されているものもあります。今回は笹洞城を見ましたが、実際にその場へ行くと写真や文章だけでは想像のできない実物があり驚かされます。地域の文化財等を維持管理していくにはいろいろな大変な課題があると考えますが、自分が体験したことを人に伝える(情報の発信)をし続けていけばよいのではないのでしょうか。



笹洞城跡頂上で。写真後列一番右が案内してくださった清水博さん。

室賀氏の城館の跡

副部長 小泉里枝(小泉)



室賀氏館跡付近概要図

1 室賀氏について

天文17年(1548年)室賀信俊は坂木の村上義清の配下として活躍し、上田原合戦では武田軍を撃退した。村上氏衰退後は武田信玄に従い、川中島合戦、三方ヶ原の戦いで活躍した。1573年信玄が病死すると、1575年の長篠の合戦には武田勝頼に従って織田、徳川連合軍と戦ったが敗れ、鳳来寺(愛知県)に蟄居同年6月死亡。

信俊の孫正武は武田氏滅亡後徳川家康の傘下となり、小泉の覇権を真田昌幸と争った。しかし、正武が真田昌幸に謀殺されると一族は室賀の地を去ることになった。正武の子と弟満俊は徳川の家臣となり幕末まで要職を務めた。

2 室賀氏屋敷の跡

旧善光寺街道を坂城方面に向かつていくと「室賀温泉ささらの湯」の入り口を左へ入る。まもなく室賀川に架かる橋は「おおてばし」である。「おおて(大手)」とは城のおもて門をあらわすものであるから、室賀氏の時代の居住地であり、城下の入り口を示している。

少し歩くと左に細い畑の道を下るのが「獄門坂」であり、下ったところが大沢川と云う小さい川、ここは昔罪人を処刑したところであり、この塔には名前など一切記されていません。

元へ戻り西へ行くと、ここが城坂と言っているところである。まもなく原組公民館となる。この辺は室賀氏の館があり、家臣

の屋敷があったと推定される場所である。

原組公民館の北方には笹洞城が見える。室賀氏館跡の処が原畑城跡で、笹洞城と合わせて室賀城となる。

地図で東の方に北の室賀峠へ



おおてばし



獄門坂に有る石塔



笹洞城跡



原組公民館(室賀氏館跡)

向かう、旧善光寺街道や小網峠、東筑摩郡筑北村坂井へ通る麻績道がある。この室賀氏の室賀城からは人の出入りをよく見ることもができる、交通の要衝であった、敵の動きが見えるから、戦国時代には守りに適した場所でもありました。

室賀氏の館の西に進むと「原田橋」があります。このところは守りを固める「空堀」となっているのがわかる。



原田橋 下は深い空堀となっている

もつと西には五位塚の板碑というものがある。鎌倉時代のものである。供養塔の一種であり貴重な供養塔として上田市指定文化財となっている。



五位塚

室賀温泉ささらの湯の北には、江戸中期に熊野権現と言われた室賀水上神社があり、大変古く趣ある神社です。

3 室賀氏のお墓

旧善光寺街道坂城町に向かい道路沿い左に、毘沙門堂跡がある。室賀氏のお墓の跡である。

江戸時代寛政5年(1793)



室賀水上神社

室賀氏後裔 室賀正朋は佐渡金山奉行から江戸へ帰任の途中、上室賀の前松寺に参詣した。その時村人は、毘沙門堂にあった室賀氏のお墓が荒れていたのので、寺の裏へ(現在地)移転整備して正朋氏を迎えた。

協力 大敷 和夫様

(郷土史愛好家・下之条在住)



毘沙門堂跡 室賀氏の墓地跡

笹洞城フィールドワークを行って 子育て教育文化部会委員の想い

笹洞城へ登る

越戸 安斉 亜紀子

川西地域の文化や歴史、自然などを地域の人達、子供達にどう知ってもらおうのがよいか? 何度も会議を開き話しましたが、なかなか話が進まず: やつと出た意見が「まず私達がその場所に出向き、その場所の歴史や現状を見て感じてみたらどうか?」と。そして協議して決めた場所が室賀にある笹洞城でした。川西地区にいくつもの山城があることを初めて知りました。山城などに詳しい室賀に住む清水さんにガイドしていただき

ました。ていねいに書かれた地図も作っていただきました。登るのも下るのもとても大変な急斜面もありました。空堀というものをお堀だと思いましたが、水があるのがお堀だと思っていました。水のない堀: 空堀。山城の周りにいくつも深く空堀が掘ってあり、現在もいくつかは残っていました。これでは敵も登るのが大変だったでしょうね。

頂上の笹洞城跡から見た景色はとてもすばらしかったです。簡単に登れる場所ではありませんが、とても素敵な経験をさせていただきました。

以前から山城に登りたいと思っていたので、笹洞城のフィールドワークが決まってから心躍る思いで参加しました。当日は天気に恵まれ、室賀温泉ささらの湯、駐車場に全員集合。事務局で手配していただいて、上室賀地区の笹洞城に詳しい清水さんが思いがけなくもガイド役で特別参加してくださり先導と説明をしていただけることになり、さらに期待が膨らみました。

登り口は何か所か有るとの事でしたが、今回は室賀温泉の脇道から室賀水上神社の長い階段を上り神社の脇を通り、堅堀(堀切)を目指し急坂を登って、尾根



前松寺裏手にある室賀氏の墓

笹洞城フィールドワークに参加して

浦野南団地 遠山 幹男

の開けている場所にたどり着きました。山頂に向かって左側はふもとの洞地区まで何処までも続く急こう配地、右側には幅4メートル深さ2メートル程の堅堀（堀切）が山頂に向かって何処までも続いている様子は驚きでした。堀切の深さは崩れたりして当初の半分位と伺いました。堅堀は当時の人々の人力で作り上げた

と聞き驚きです。堅堀に沿って尾根道を進むと10坪位の平地が現れ、眼下にはいく筋もの深い切堀と急こう配地がありさらに何段かの平地が続き、平地横の急こう配に取り付けられたロープを頼りにして上に進むと二の郭にたどり着き、さらに進むと本郭への入口堅固な城門の石積跡が現れ、さらに進むといく段か上に上がってようやく本郭に着きました。本郭は約300坪程の平地で数本の大木と熊笹が茂り視界は南側方面に広く開けていました。

本郭よりの眺望という上田原・塩田平の街並みや田園風景が遙か遠くに広がり、東より西に向かう国道143号線と小泉T字交差点より家並み田園の中を山城に向かう県道真田新田線が、一直線に山城に向かい迫ってくる。圧巻の風景が目に見え込んできたときには本当に感動です。帰りのコースは石切り場を見

学して洞地区を目指して本郭を後に、帰り路ふと山城が何故この場所に必要だったのだろうかと思い巡らしながら下山しました。

笹洞城築城当時はまさに戦国時代。近くには信濃の国分寺より西に向かう東山道と、東山道より折れ城下を横切り室賀峠を越えて善光寺へと向かう善光寺街道が、そこを多くの旅人と荷駄で大賑わいであつたであろうと、また

当時はまさに混とんとした戦国時代、いつ敵に襲われるか解らない時代に近隣住民の緊急避難場所としての役割も果たしていたのではと想像しました。街道や外敵侵入の監視が一目瞭然に出来るこの地こそが要の地、そこは山城の重要性があつたのではないかと思ひました。

洞地域に到着後、伍位塚を見学して原畑城跡を経て室賀温泉ささらの湯駐車場に到着。約2時間の笹洞城フィールドワークでしたがとても気持ちの良い時間を過ごせました。

家に帰り家族に話したら、小学校の頃友達と皆で登つたことがあり楽しかったと話が弾みました。そして登り口は何か所かあるとの事でした。

今回登ってみて子ども達だけでは危険と思われる箇所があり、案内板等が少なかつたと思ひま

す。笹洞城跡をいつまでもみんなが楽しく安心して散策できる場所にするために、環境整備が必要かと思ひました。環境の整備推進をする為に今何が必要か、地域の人々だけでなく川西地域全体として、また官にお願ひし官民一体となつて知恵を出し合い良い方法を考え進めて行ければ良いなと思ひました。

また、「山城と温泉」「山城と祭り・農産物販売」などの企画も検討の余地があるなと思ひました。

笹洞城の堀切

上室賀 西澤 洽三

室賀水上神社を過ぎてからは本格的な山道となる。道とはいえず本当に狭いものである。獣道と変わりない。ゆつくりと登つていくが山は険しくなつてきた。

右側に沢というか谷というか、縦に溝が見えてきた。これが堀切である。人がかくれる高さ程に掘つてある。攻める者は本来の道より自然に入り、上を目指して登つていくだろう。ここに入り込んだ敵に対し、城の守り兵は溝の上から木材や石を落としたり、剣で突く等の攻撃を加え敵の戦力を押さえこんだ。防ぎきれない敵はさらに上で待つ堀割で戦にい



笹洞城跡頂上より塩田平を望む。遠く荒船山も見える。

洞城へ行つてきた。山城跡は今もひっそりとあつた。当時の面影は石垣や門の柱の一部に残つているが、郷土研究家の作図や案内があつてこそ当時の名残（空堀、武者溜まり）を知ることができたが、いきなり案内なく行つたのでは何が何だか分からないのが実情だ。

山城跡は整備されていた。頂上からは遠く上田市内方面が望め、「ああなるほど」押し寄せる敵勢を発見するのに最良の地であることがわかり、納得した。

この山城の麓を通る県道は、何度となく通つていたが大河ドラマで放送されるまで知らなかつた。

この地域に暮らす人達は、山城の整備等保存のため尽力されている。ちよつと外れば関心が薄れて顧みる者はいなくなつてしまふ。地域の研究家の地道な努力があつてこそ、旧跡が存続されると思つた。

インターネットを覗けば地域の名跡を研究して発信している。しかし、図面や写真で行つた気になるよりも、実際に汗を流せば、風や香りを感じ、当時の頃に思ひを馳せられるのではないかと

山城笹洞城にて

思うこと

浦野南団地 西澤 俊夫

9月中旬の日曜日、まちづくり委員会のメンバーで上室賀地籍にある戦国武将室賀氏の山城、笹

思つた。

笹洞城フィールドワーク実施と「川西紀行」発行にあたり、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。